

令和7年度（2025年度）第1回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和7年（2025年）6月3日（水）午前10時～正午
- 2 場 所 501会議室
- 3 出席者 榊原 弘之、新井 宝造、近藤 高史、吉崎 直己、平井 正吉、山本 隆明、吉村 暁夫、白羽 圭子、大東 憲二、龍田 昭一、毛利 まり子、吉鶴 弥生、千頭 聡アドバイザー（委員12名、アドバイザー1名、敬称略）
副市長（途中退席）、環境経済部長（途中退席）、生活環境課長兼ゼロカーボン戦略室長、生活環境課環境対策グループ統括主任、生活環境課生活環境グループ統括主任、生活環境課主任、リサイクル推進課統括主任、リサイクル推進課主任（事務局8名）
- 4 欠席者 なし
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容
 - (1) 委嘱状交付
副市長より委員への委嘱状の交付を行った。
 - (2) 委員長等の選任
次の選出方法により委員長等を選出した。
ア 指名推薦 委員長 山本委員
イ 指名推薦 副委員長 榊原委員、吉崎委員
ウ 委員長による指名 職務代理者 榊原委員
エ 委員長による指名（両副委員長の承認） 地球温暖化対策プロジェクトチームのリーダー 榊原委員、サブリーダー 平井委員
 - (3) 説明事項
第3次環境基本計画及び本委員会等の年間スケジュールについて、事務局より資料を用いて説明を行った。
(委員)：2つの部会で事務負担に差があるように思える。
→(事務局)：生活環境保全・自然共生部会と気候変動対策・循環型社会部会で事務負担ができる限り同じとなるように担当を分けているが、今年度は、第5次ごみ処理基本計画のアンケート実施のため3R推進協議会が普段より実施回数が多くなっており、気候変動対策・循環型社会部会の負担が大きくなっているがご了解いた

だきたい。

(4) 協議事項

年次報告書及び令和7年度（2025年度）年次報告書（案）の詳細について、事務局より資料を用いて説明を行った。

（委員）：環境基本計画の行動計画における主な取り組み内容等で、各部各課がどのように関わっているのか見える形で記載した方が良いのではないかと。

→（事務局）：現状の案として、担当課を記載しない形で提示しているが、担当課を記載した場合、環境部門に偏ってしまう可能性があることから、内部で検討し、次回委員会で案を提示する。

（委員）：愛知県が実施している環境調査モニタリングや、知多半島グリーンベルトの調査を統合して東海市の計画に反映できると良いのではないかと。

→（事務局）：内部で検討する。

（委員）：計画期間の全体的な評価の○×△は決定事項なのか。3段階評価では、変化が見えないため、4段階の評価としたり、ミシュランのように☆などの見やすい形が良い。

→（事務局）：いただいた意見を参考に検討し、次回の委員会資料で案を提示する。

（委員）：成果指標の推移の中の降下ばいじんは、何を基準としてどのように評価しているのか理解できない。

→（事務局）：国が定めた基準は、煙突での排出等に対するばい煙及びばいじんの排出に係る規制基準であり、県が規制対象事業者の順守状況を確認しているが、各事業者とも順守していると聞いている。また、市域における降下ばいじんについては、規制基準や環境基準が設定されていないことから、市独自でめざそう値を定めており、市内平均値は総合計画の策定時に設定し、北部と南部の平均値は本委員会で話し合いを行って設定している。

市としては、県、臨海部企業と一緒に降下ばいじん対策検討会を定期的を開催している他、煙突から出るばいじんについて公害防止協定でより厳しい基準を設定するなどの対応を行うことで、降下ばいじん量を削減できるように取り組んでおり、中長期的には降下ばいじん量は減少傾向にあると考えている。

(5) 千頭アドバイザー意見

年次報告書については、4段階の評価にしてはどうかという意見が出たが、4ページ成果指標の推移は、8年間の評価であり、「目標値に到達したか」、「全面的に到達できなかったか」、「基準値よりも悪くなった」という3段階の評価とすることが相応し

いかと思う。ただ、毎年の評価は4段階の方が見やすい。

降下ばいじんを含め、市民への情報公開の仕方が不十分に感じる。情報共有の方法について改善の余地があると思うので、前向きに検討いただきたい。